

event news

2014年12月イベントのお知らせ

- 「構造見学会 (安芸高田市)」
 - 「初めての家づくり教室 (ハツイエセミナー)」
 - 「定期点検 (福山)」
 - 「住まい手さんの家見学会」
- の4つを開催します。

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7 構造見学会 (安芸高田市)
8	9	10	11	12	13	14 ハツイエ セミナー
15	16	17	18	19	20 定期点検 (福山)	21 住まい手様 見学会
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

誠に勝手ながら年末年始の休業とさせていただきます。
(緊急連絡先: 080-4423-3112)

超快適 & ゼロエネ研究所 通信 vol.22 DEC. 2014

株式会社エヌテック
〒733-0007
広島市西区大宮 2-13-7
TEL:082-509-5771 FAX:082-509-5772
E-mail:info@ntecj.co.jp
HP:http://www.ntecj.co.jp



『構造見学会』

- 開催日: 12月7日 (日) 開催日変更
- 開催時間: 午前10時~午後3時
- 場所: 安芸高田市吉田町
- 事前にご予約をお願い致します。

「決める前に必ず見ておこう。」
家は何十年も暮らすことになる家族の基盤です。子や孫の代の事まで考えると、ゆるぎない構造に支えられた“安心”と“安全”を軽視するわけにはいかないはず。エヌテックが家づくりで最も重要と考えている事は、「地震にも耐える構造の確かさ」です。パッシブデザインの家づくりも重要ですが、まずは構造がしっかりしていなければ元も子もありません。是非ご自身の目で確認し、その信頼性をご実感下さい。



※建築予定地

『初めての家づくり教室』

- 開催日: 12月14日 (日)
- 開催時間: 午前2時~午後4時
- 場所: Gallery 様 (エヌテック事務所隣)
- 事前にご予約をお願い致します。

家づくりをお考えの際、重視されることは何ですか? 家は人生の基盤です。「夢の実現」だけで満足できるほど簡単ではありません。家づくりに本当の満足を得るため、知っておくべき大切な情報を「科学する工務店」エヌテックがお伝えいたします。家づくりは家族の今後50年を決め、人生を左右する大事な事業です。是非、このセミナーに参加されて正しい家づくりを成功させてください。



限定5組様
となっております。

『住まい手さんの家見学会』

- 開催日: 12月21日 (日)
- 開催時間: 午前10時~午後3時
- 場所: 未定
- 事前にご予約をお願い致します。

毎回大好評を頂いております、住まい手さんの家見学会。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。家は建ててしまっただけではありません。毎日の暮らしの中でより使い易いように改善したり、家族の成長に合わせて間取りを変更したりと、ライフスタイルの変化に合わせて暮らし方も変わっていきます。「住まい手さんの家見学会」では、実際の暮らしぶりをご覧いただいたり、住んでみてどうだったかなど住まい手さんの生の声を聞く事が出来ます。皆様のご参加をお待ちしております。

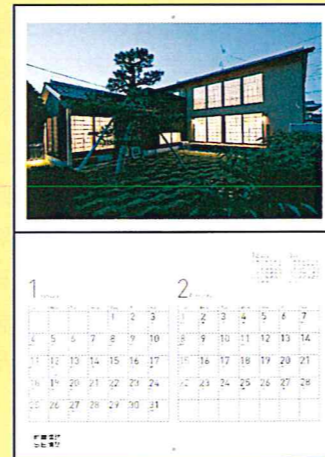


【イベントへのご参加方法】

- 事前のご予約が必要な場合、下記のいずれかにてお申し込みをお願い致します。
- ・エヌテックホームページのフォーム (URL <http://www.ntecj.co.jp/>)
 - ・エヌテック代表メール (info@ntecj.co.jp)
 - ・エヌテックへのお電話 (082-509-5771) 担当: 佛崎 (ぶつぎき)・谷口まで

今年もカレンダー配布に参ります!

毎年恒例となっております、OB様宅へのカレンダー配布。今年一年の御挨拶と併せて、代表野坂が皆様へカレンダーをお渡しに伺います。現在カレンダーの到着待ちとなっておりますので、事務所へ届き次第皆様のもとへお届けに参ります。2014年版からデザインが一新されてより使い易くなりました。是非ご利用下さいませ。また、OB様以外でもカレンダーをご希望の方がいらっしゃいましたら、エヌテックまでご連絡下さいませ。郵送にてお届け致します。



今年の冬を省エネで快適に過ごしていただくために②

電気カーペット

みんな集まれ、団らんらんらん。

電気こたつ

ぬくもりをサンドイッチ。

最低限の広さと温度で。

布団は厚く。温度は低く。

省エネ レッスン

断熱マットで効率アップ。

床にじかに敷くと、熱が床に逃げて暖房効率下がります。カーペットの下に断熱マットなどを敷くのが省エネのコツ。

人のいない部分は、暖めない。

カーペットを分割して暖める機能もあるので、人のいない部分はスイッチ OFF。



省エネ行動と省エネ効果

広さにあった大きさを。

年間で電気 89.91 kWh の省エネ 約 1,980 円の節約
 原油換算 22.66L CO2削減量 31.5kg
 室温 20℃ の時、設定温度が「中」の状態 1 日 5 時間使用した場合、3 畳用のカーペットと 2 畳用のカーペットとの比較

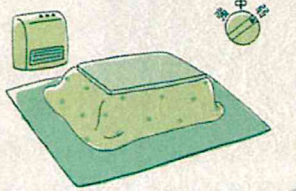
設定温度は低めに。

年間で電気 185.97 kWh の省エネ 約 4,090 円の節約
 原油換算 46.86L CO2削減量 65.1kg
 3 畳用で、設定温度を「強」から「中」にした場合 (1 日 5 時間使用)

省エネ レッスン

腰から上の冷え対策には。

こたつはおもに腰から下を暖める暖房機器なので、上半身は寒くなりがち。カーディガンなどを1枚多めに着込むことが温かさのポイントです。ストーブやエアコンなど、他の暖房機器と併用する場合は、控えめな温度設定を。



省エネ行動と省エネ効果

設定温度は低めに。

年間で電気 48.95 kWh の省エネ 約 1,080 円の節約
 原油換算 12.34L CO2削減量 17.1kg
 1 日 5 時間使用で、温度調節を「強」から「中」に下げた場合

こたつ布団に、上掛けと敷布団をあわせて使う。

年間で電気 32.48 kWh の省エネ 約 710 円の節約
 原油換算 8.19L CO2削減量 11.4kg
 こたつ布団だけの場合と、こたつ布団に上掛けと敷布団を併用した場合の比較 (1 日 5 時間使用)

※一般財団法人省エネルギーセンター「家庭の省エネ大辞典」より

防火地域にて木造3階建て住宅を建設中です。

防火地域で住宅を建設する場合、「100㎡を超え、または階数が3以上」であれば耐火建築物とする必要があります。耐火建築物とするために、これまでは鉄筋コンクリート造や鉄骨造で住宅をつくる手段が当たり前だったのですが、実は木造軸組工法でも耐火建築物とすることは可能です。国土交通大臣の認定を取得する方法を採用するという手段です。現在広島市中区千田町に建設中のお住まい

は、「日本木造住宅産業協会 (木住協)」が認定を取得した方法を用いて建設中。完成は2月末の予定です。木住協の仕様で建築申請があった建物は広島県でこれまで6件 (2014年8月現在)。その内、5件は学校施設と道の駅でした。つまり、木住協の仕様では住宅として広島県初の耐火建築物を建てていることとなります! 木造住宅の可能性を広げる今回のお住まいはゼロエネ&光冷暖採用。2月の完成見学会をお楽しみに!



広島駅や広島城は準防火地域、県庁や本通りは防火地域に指定されています。建設予定地がこういった地域の場合、建物の規模によっては耐火建築物や耐火建築物とする必要があります。



My Topics

エヌテックメンバーからの家づくりトピックス

『現場進捗状況』

土井長 元氣

工務部の土井長です。各現場の進捗状況です。中区のY様邸。設備配管・電気配線が完了して、ガレージ部分の軒天仕上げ（ケイカル板）を貼り終えました。



強化ボードの二重貼り作業は、重量があり棟梁も大変だったと思います。お疲れ様です。2階は断熱材施工が完了して、天井の下地組み・設備配管・電気配線が随時行われています。ユニットバスの据付け作業も行われました。強化ボードを張り終えれば、いよいよ造作作業に移ります。引き続きよろしくお願ひ致します。

続いて安芸高田市のM様邸。11月27日に上棟を控えたM様邸では、上棟に向けて着々と準備が進んでいます。建材屋さん

の倉庫では木工事の前段取り作業が開始されました。屋根下地（ケラバ部分）の先行ハシゴ組み、屋根断熱のフェノバボードのカット作業。また先日は岩田棟梁に手伝って墨出しを行いました。各職人さん達としっかりコミュニケーションをとりながら進めていきたいと思います。

ながら進めていきたいと思います。



『メンテナンス』

佛崎 浩平

お客様サポートの佛崎です。11月に行ったさまざまなメンテナンスをご紹介します。まず、室内網戸のスライ



ド丁番金物の破損による取替えです。木製サッシを施工しているお住まいの縦滑り出し窓には、片開き戸、もしくは折戸タイプの網戸を設けています。開閉動作を支える丁番金物部分は特に破損しやすい部分です。この度、11年目にして軸部分が割れて取り替えることとなりました。そのほかスライド丁番を使用している部分は、収納やクローゼットが開き戸の場合の室内建具に使用しています。窓本体や網戸の製造は終了していますが、部品に関してはメーカーへの手配が可能です。弊社でも、部品の在庫があります。動作に異常があったり、目視で割れているなどの確認ができましたら、ご相談下さい。

続いて蔵の外装修繕工事です。この度、台風の影響でお住まいの敷地内にある蔵の外装仕上げ材の漆喰壁が剥がれ落ちてしまいました。お客様の加入されている火災保険に適応される工事となった為、必要書類の準備を行って受理を待ってからの着工となりました。スペースが狭い空間ですが経験と技術で作業をこなしていく左官さん。頼りにな

ります！

『朝倉彫塑館 & 樹脂窓』

谷口 護

設計担当の谷口です。11月7日・8日に、社長と共に東京へ出張でした。数社の工務店さんと一緒に打合せを行い、その後



の懇親会もご一緒しました。2日目の朝は飛行機の出発まで少し時間があつたので、谷中にある『朝倉彫塑館』に行きました。現在お

打合せ中のM様より教えていただき実際に見学してきました。M様、情報提供をありがとうございました。建物の中は写真撮影禁止だったので、外観の写真を撮りました。朝倉文夫さんのアトリエ兼住居だった建物で、2枚目の写真は住居部分の玄関です。建物内部には中庭があり、なんと屋上庭園もありました。住居

部分の作りも非常に凝ったもので、訪れるたびに新たな発見がありそうな建物です。展示ルートの最後には、愛猫家だった朝倉さん作の猫の彫刻がたくさんあり、愛猫家の野坂社長も嬉しそうに見入っていました。時間の都合もあり、朝倉彫塑館だけを見て谷中を後にしましたが、時間がある時にはぶらぶらしてみたい界隈だと感じました。

続いて樹脂窓の動きをご紹介します。現在エヌテックではシャノンの樹脂窓を標準仕様としてご提案しています。これからの季節で気になる点の一つ、窓の結露についてアルミ樹脂複合サッシとの違いを説明してある資料をシャノンよりいただきました。樹脂とアルミで熱の伝わり方が1000倍違いますので、当然結露にも違いが出てきます。YKK APは雑誌ソトコトの12月号の付録として「マドコト」と題して大々的に特集を組んでいます。表紙のタイトルは「樹脂窓で健康！」。樹脂窓で得られる結果を一般消費者の方にもわかりやすい内容でアピールされていました。世界的に見ると、日本の樹脂窓普及率は7%である一方、アメリカ67%、ドイツ60%、中国22%。メーカーも樹脂窓の普及に当然力を入れてきますね。LIXILも来年1月にトリプルガラスも選択できる新しい樹脂窓を発売します。トリプルガラスの中間のガラスの厚みを1.3mmにして、窓を開閉する際の負担を軽減。各社工夫を凝らした戦略です。

続いて樹脂窓の動きをご紹介します。現在エヌテックではシャノンの樹脂窓を標準仕様としてご提案しています。これからの季節で気になる点の一つ、窓の結露についてアルミ樹脂複合サッシとの違いを説明してある資料をシャノンよりいただきました。樹脂とアルミで熱の伝わり方が1000倍違いますので、当然結露にも違いが出てきます。YKK APは雑誌ソトコトの12月号の付録として「マドコト」と題して大々的に特集を組んでいます。表紙のタイトルは「樹脂窓で健康！」。樹脂窓で得られる結果を一般消費者の方にもわかりやすい内容でアピールされていました。世界的に見ると、日本の樹脂窓普及率は7%である一方、アメリカ67%、ドイツ60%、中国22%。メーカーも樹脂窓の普及に当然力を入れてきますね。LIXILも来年1月にトリプルガラスも選択できる新しい樹脂窓を発売します。トリプルガラスの中間のガラスの厚みを1.3mmにして、窓を開閉する際の負担を軽減。各社工夫を凝らした戦略です。

続いて樹脂窓の動きをご紹介します。現在エヌテックではシャノンの樹脂窓を標準仕様としてご提案しています。これからの季節で気になる点の一つ、窓の結露についてアルミ樹脂複合サッシとの違いを説明してある資料をシャノンよりいただきました。樹脂とアルミで熱の伝わり方が1000倍違いますので、当然結露にも違いが出てきます。YKK APは雑誌ソトコトの12月号の付録として「マドコト」と題して大々的に特集を組んでいます。表紙のタイトルは「樹脂窓で健康！」。樹脂窓で得られる結果を一般消費者の方にもわかりやすい内容でアピールされていました。世界的に見ると、日本の樹脂窓普及率は7%である一方、アメリカ67%、ドイツ60%、中国22%。メーカーも樹脂窓の普及に当然力を入れてきますね。LIXILも来年1月にトリプルガラスも選択できる新しい樹脂窓を発売します。トリプルガラスの中間のガラスの厚みを1.3mmにして、窓を開閉する際の負担を軽減。各社工夫を凝らした戦略です。

続いて樹脂窓の動きをご紹介します。現在エヌテックではシャノンの樹脂窓を標準仕様としてご提案しています。これからの季節で気になる点の一つ、窓の結露についてアルミ樹脂複合サッシとの違いを説明してある資料をシャノンよりいただきました。樹脂とアルミで熱の伝わり方が1000倍違いますので、当然結露にも違いが出てきます。YKK APは雑誌ソトコトの12月号の付録として「マドコト」と題して大々的に特集を組んでいます。表紙のタイトルは「樹脂窓で健康！」。樹脂窓で得られる結果を一般消費者の方にもわかりやすい内容でアピールされていました。世界的に見ると、日本の樹脂窓普及率は7%である一方、アメリカ67%、ドイツ60%、中国22%。メーカーも樹脂窓の普及に当然力を入れてきますね。LIXILも来年1月にトリプルガラスも選択できる新しい樹脂窓を発売します。トリプルガラスの中間のガラスの厚みを1.3mmにして、窓を開閉する際の負担を軽減。各社工夫を凝らした戦略です。

『着工準備 & 木造耐火建築物』

渡部 良佑

設計担当の渡部です。現在着工に向けて各種申請を進めている廿日市市N様邸。なかなか思うように物事が進まない事も多々あります。そんな中



で協力を頂けるN様はじめ、土地の地主様には本当に感謝しています。先日現地へ確認事項の調査へ行った際に地主さんにお会いし、「協力出来るのであれば何でも言ってください。」と嬉しいお言葉を頂きました。こうして

地域の方とお話しが出来るのも楽しみの一つです。地域の事を教えてもらえたり、業者さんを紹介していただくなど、ご近所様の暖かさを感じます。引き続き着工に向けての準備を進めていこうと思います。続いて現在工事進行中のY様邸。何度かご紹介しましたが、防火地域による三階建てということで、耐火構造とする必要がありました。木住協が発行・取得している認定構造を使用して耐火構造としています。強化ボード二重貼りなど仕様が認定ごとに定められています。そんな中、先日「吉野石膏」

の方が事務所に来られ、耐火又は準耐火の取得構造・商品の説明を谷口さんと共に受けました。話の中で驚いたのが、広島では木住協の仕様で木造の耐火構造として認定を使用している建物は6棟のみ。そのうち1棟は現在進行中のY様邸で、他は学校等の建物という事でした。広島での貴重な木造耐火建築物です。防火地域での木造三階建ての工事現場を発見して、吉野石膏の方も驚かされた

と仰っていました。木造の耐火構造が告示化されるにあたり、これからもっと多くの認定や商品が出てくると思います。木造でないと作り出せない温熱環境や構造体、意匠があるので、こうして扱える範囲が広がっていくのは嬉しいことです。商品の説明の中でも石膏ボードにも色々あるなあと。また一つ勉強になりました。

と仰っていました。木造の耐火構造が告示化されるにあたり、これからもっと多くの認定や商品が出てくると思います。木造でないと作り出せない温熱環境や構造体、意匠があるので、こうして扱える範囲が広がっていくのは嬉しいことです。商品の説明の中でも石膏ボードにも色々あるなあと。また一つ勉強になりました。

と仰っていました。木造の耐火構造が告示化されるにあたり、これからもっと多くの認定や商品が出てくると思います。木造でないと作り出せない温熱環境や構造体、意匠があるので、こうして扱える範囲が広がっていくのは嬉しいことです。商品の説明の中でも石膏ボードにも色々あるなあと。また一つ勉強になりました。

と仰っていました。木造の耐火構造が告示化されるにあたり、これからもっと多くの認定や商品が出てくると思います。木造でないと作り出せない温熱環境や構造体、意匠があるので、こうして扱える範囲が広がっていくのは嬉しいことです。商品の説明の中でも石膏ボードにも色々あるなあと。また一つ勉強になりました。

『絶賛稼働中』

市川 里穂

設計担当の市川です。最近寒くなってきたので先日からギャラリー様では光冷暖を暖房モードにして運転を始めました。常にスタッフのいる事務所から様



に移動すると少し寒いのですが、これからどんどん寒くなってくると光冷暖の快適さを感じることが出来るようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

快適さを感じるようになってくると思います。冬場にいくら暖房しても足元だけは

寒いまま、、、という経験をしたことのある方は大勢いらっしゃると思いますが、光冷暖はそのような室内の上下での温度差がありません。室内の天井から床まで均一に暖かくとても快適です。ヒーターやエアコンのように風（暖房するための熱い風）が出ることがないのでそれもまた快適だと感じる要因のひとつです。ギャラリー様では毎日光冷暖を稼働させています。光冷暖の体験はご予約がなくてもいつでも出来ますので、お気軽にお越し下さい。



快適を突き詰める

エヌテック代表 野坂 和志



「快適と安心」

<エヌテックが皆様にご提案したいのは、「快適と安心」です。>私たちは皆様にどういふ家をご提案したいか、それは「快適に過ごせること」の一言に尽きます。もうひとつ、「安心」もあります。快適が安心の前に書いてあるのには訳があります。安心とは、地震や台風など自然災害の多い日本に家を作る以上、災害に対する備えがなければ日々安心して暮らすことは出来ません。しかし、安心は家作りにおいて住まいの命を守ることにつながる絶対的に必要なものではありませんが、何が起ったときにその存在が有り難く感じることであつて日々の暮らしに役立つこととはちょっと違います。でも、快適は違います。

では、エヌテックがご提案したい快適って何か？どんな素敵なデザインでも、個性的で奇抜な形であっても、そこに「快適な温熱環境（暖かい涼しい）」と「日常生活における使い勝手の良さ」が伴っていなければずっと好きで「使い続けて頂く」ことは出来ません。「温熱環境と使い勝手」この2つを快適の条件と考えているのです。なぜなら、家は人がありのままの自分に帰る場所であり、人生の基盤であり、何よりも

長く使って頂くものだからです。家作りに快適は当たり前のように思えますが、時代をひもとくとより質の高い快適が求められ、本当に実現出来るようになったのはつい最近のことなのです。ほんの20年ほど前まで、家は“出来るだけたくさんの部屋数がある間取り”と“洋風か和風か”を提案すれば良かったのです。冬の寒さや夏の暑さは当たり前であつて、寒いのはストーブやファンヒーターやこたつなどの暖房器具で暖をとり、暑いのは扇風機やクーラー（エアコン）を設置する。ちょっと資金的に余裕があれば、高価な床暖房を導入する場合もあつたように思います。作り手も、住まい手もそのありように疑問を抱いていなかったように思います。その頃は、今ほど燃料費が高騰しておらず冷暖房に関する費用に対して切迫感もなく、比較のおおらかだったのかもしれない。時代が少し変わったのは約20年ほど前、1990年代の初め頃「高気密高断熱住宅」が北海道から西日本に入ってきたことです。どうやら北国の家作りでは少しのエネルギーで冷暖房が出来るらしいと注目を集めたものの、かなり特殊な作り方であつて一般的になるほど広がることはありませんでした。何となく、息が詰まりそうでイヤ、とか温暖地である広島にはやり過ぎ（冬の寒さは温暖地とは言えませんが、その認識がありませんでした。）といった意見が多数を占め、あくまでも一部のマニアックな家作りとされてきました。それから、あの「阪神・淡路大震災」が起つたのは1995年1月17日の早朝のことでした。

次回に続きます。